

寄稿

食品技術士と包装・物流



技術士包装物流会
理事 黒瀬 直孝

技術士包装物流会の関西支部に入会して以来 11 年目に入り、今年の創立 50 周年を迎えました。

振り返れば、技術士二次試験（生物工学部門）に合格した 2001 年当時は宝酒造株式会社中央研究所（大津市）に勤務しており、清酒松竹梅や宝焼酎の新製品を開発するために酵母菌や乳酸菌などの微生物育種研究に従事していました。その後、酒類、調味料および飲料の品質管理（京都市）を担当することになり、商品の中身品質のみならず容器包装に関する知識も必要となりました。その頃に関心をもったのが技術士包装物流会関西支部の存在でした。

現在はイオンの品質管理会社（株式会社生活品質科学研究所）の中央研究所（千葉市）に勤務しており、技術士包装物流会では本部に籍を移しています。会社では主にプライベートブランド食品「トップバリュ」の品質設計や品質管理を担当していますが、食品そのものの品質、美味しさに加えて、容器包装の品質やそれに印刷する表示内容にも業務範囲が及びます。

物流技術が進歩していく中で、製造工場から日本各地や海外のお客様の手もとに良い品質のまま食品をお届けするために、「食品技術士」は食品包装に関する新しい知識を常に取り入れていくことも大切です。そのためにこれからも当会の活動を通して「包装・物流」を勉強しようと考えています。